



巻頭特集

JGAナショナルチーム レポート

ガレス・ジョーンズヘッドコーチ体制が
発足してから4年目となる2018年。

JGAナショナルチームは、アジア競技大会男子個人・団
体で20年ぶりの金メダルを獲得、

世界女子アマチュアゴルフチーム選手権では、
歴代最高の2位で悲願の表彰台に上がり、実りの時を迎えた。

そして、2019年、ナショナルチームメンバーは
世界への飛躍を目指している。

JGAナショナルチームの2018年の戦いを振り返るとともに、
大海原に漕ぎ出そうとしている

選手たちの希望の声をお届けする。

競技報告

- 1 アジア競技大会ゴルフ競技 03-05
- 2 世界アマチュア
ゴルフチーム選手権 06-11
- 3 アジアパシフィック
アマチュア選手権 12

特別インタビュー 14-17



金谷 拓実
×
中島 啓太

2019年度
JGAナショナルチーム選手一覧 18-19



男子が個人・団 体で5大会20年ぶりの 金メダル獲得。女子も5位と健闘

開催日：2018年8月23日(木)～26日(日)
開催地：インドネシア、ジャカルタ・パレンバン
開催コース：Pondok Indah Golf & Country Club
参加国：男子20か国、女子15か国

- 【選手】男子：今野 大喜 (日本大学4年)
金谷 拓実 (東北福祉大学2年)
中島 啓太 (代々木高校3年)
米澤 蓮 (東北福祉大学1年)
- 女子：古江 彩佳 (滝川第二高校3年)
佐渡山理莉 (名護高校3年)
小倉 彩愛 (操山高校3年)

インドネシアのPondok Indah GCで開催された「アジア競技大会ゴルフ競技」。これまでの日本チームは東南アジア特有の高温多湿に苦しめられてきたが、その経験を活かした本大会では、尿比重分析を実施。ラウンド中に適切な水分摂取や栄養摂取を行うなど暑熱対策を施し、パフォーマンスの低下を防いで本来の力を発揮。男子は、中島啓太が通算11アンダーパーで個人戦金メダルを獲得する活躍を見せて、チーム通算28アンダーパーで5大会20年ぶりの金メダル獲得の快挙を達成した。女子も古江彩佳が個人戦3位決定プレーオフで惜敗したものの4位と健闘。女子チームは惜しくもメダル獲得は逃したが、5位と好成績を残した。



Day1 男女とも個人・団体が単独首位と絶好のスタートを切る

男子は、チーム最年少の中島啓太が5バーディ・1ボギーの安定したプレーで個人戦首位に立つ4アンダーパーをマーク。金谷拓実と米澤蓮も2アンダーパー、今野大喜は1オーバーパーに終わったが、チームスコアを8アンダーパーとして、2位のインドに5打差をつけて単独首位に立った。女子も古江彩佳が6バーディ・1ボギーの5アンダーパーでホールアウトし個人戦単独首位。佐渡山理莉、小倉彩愛も3アンダーパーと好スコアをマークして、チームスコア8アンダーパーで2位の中国に2打差の単独首位と好スタートを切った。



1 第1ラウンド、個人首位に立った中島啓太
2 好調なスタートを切った金谷拓実
3 古江彩佳も初日、個人単独トップ

Day2 男子は首位を快走 女子は2位と一歩後退

前夜のサンダーstormも過ぎ去り、晴天微風の絶好のコンディションでスタートした第2ラウンド。雨を含んで柔らかくなったグリーンに好スコアが続出。上位争いは混戦模様となった。男子は、チーム戦首位スタートの立役者となった中島が5バーディ・1ボギーの68と連日の60台をマークすると、今野も4アンダーパーでチームに貢献。金谷は2アンダーパー、米澤も1アンダーパーとチーム全員がスコアを伸ばした日本チームは、通算18アンダーパーで2位のインドに6打差、3位の韓国に9打差とリードを広げて首位を快走。女子は、古江が2アンダーパーでエースの活躍を見せたものの、佐渡山と小倉がイーブンパーとスコアを伸ばせず、チーム通算10アンダーパー。この日チームスコアを9打縮めた中国に逆転を許し、5打差の2位に順位を落とした。日本から4打遅れての3位タイには韓国、フィリピン、インドネシアが続いている。



4 首位を守り切った日本男子チーム

Day3 男子は好調をキープするも 女子は4位と後退

チーム最年長の今野が6バーディ・3ボギーの69をマーク。個人戦でも通算7アンダーパーの4位タイとメダル獲得圏内に順位を上げてチームを牽引すると、中島も安定したプレーを見せて、2つスコアを伸ばして個人戦首位を堅守。金谷と米澤はともにオーバーパーに終わったが、チーム通算22アンダーパーとし、金メダル獲得に王手をかけた。5打差の2位には韓国が浮上し、最終ラウンドで

雌雄を決することとなった。女子は、ここまでチームを牽引してきた古江がボギーの先行する苦しいプレーを強いられ4バーディ・6ボギーの2オーバーパーに終わると佐渡山が1オーバーパー、小倉も5オーバーパーとスコアをまとめきれず、チームスコアを3つ落とし、通算7アンダーパー。通算19アンダーパーでトップの中国、7打差の2位で韓国、3位のフィリピンに3打差の4位に後退した。

Day4 男子は20年ぶりの金メダル 女子は5位に終わる

運命の最終ラウンド。チーム戦首位でスタートした男子は、金谷が4アンダーパーの68で個人戦4位タイとなるプレーでチームを牽引すると、中島も71で通算11アンダーパーにスコアを伸ばし個人戦金メダルを獲得。米澤も71でチーム通算28アンダーパーで中国に7打差をつけて5大会20年ぶりとなる金メダルに輝いた。一方の女子は、古江が68と気を吐き、通算9アンダーパーで個人戦3位タイ。銅メダルをかけたプレーオフには惜敗したが女子チーム最高順位の4位と健闘を見せた。小倉は4オーバーパー、佐渡山も6オーバーパーとスコアを落とし、団体戦はチーム通算7アンダーパーで5位に終わった。

4 首位を守り切った日本男子チーム
5 金メダルを獲得したチーム最年少の中島啓太(中央) 銀メダルのOH Seungtaek(左)、銅メダルのJIN Cheng(右)



[日本男子団体]

順位	国名	1R	2R	3R	4R	TOTAL
1	日本	208	206	212	210	836
2	中国	217	217	200	209	843
3	韓国	214	209	208	214	845
4	タイ	215	209	211	211	846

[日本男子個人]

名前	1R	2R	3R	4R	TOTAL
中島 啓太	68	68	70	71	277
金谷 拓実	70	70	73	68	281
今野 大喜	73	68	69	74	284
米澤 蓮	70	71	74	71	286
チーム	208	206	212	210	836

[男子個人成績]

順位	選手名(国名)	スコア
1	中島 啓太(日本)	-11
2	OH Seungtaek(韓国)	-10
3	JIN Cheng(中国)	-9
4T	YU Chunan(台湾)	-7
4T	金谷 拓実(日本)	-7
6	KAEWKANJANA Sodom(タイ)	-6

[日本女子団体]

順位	国名	1R	2R	3R	4R	TOTAL
1	フィリピン	143	139	140	132	554
2	韓国	142	140	138	137	557
3	中国	138	135	140	145	558
5	日本	136	142	147	144	569

[日本女子個人]

名前	1R	2R	3R	4R	TOTAL
古江 彩佳	67	70	74	68	279
佐渡山 理莉	69	72	73	78	292
小倉 彩愛	69	72	77	76	294
チーム	136	142	147	144	569

[女子個人成績]

順位	選手名(国名)	スコア
1	SASO Yuka(フィリピン)	-13
2	LIU Wenbo(中国)	-10
3	PAGDANGANAN B.(フィリピン)	-9
4	古江 彩佳(日本)	-9
5T	THITIKUL Atthaya(タイ)	-8
5T	RYU Haeran(韓国)	-8



アジア競技大会
ガレス・ジョーンズヘッドコーチ 総評

金谷と中島が高い基準でコースマッピングを行い、チーム全体の準備の質を高めてくれました。その情報がパフォーマンスの向上に繋がっています。このチームのメンバーはアジア太平洋地域で試合するときには、自分自身に自信を持って戦うことができます。彼らは大会に向けた準備内容が他チームより優れていることを知っているし、詳細への注意

が優れているので、常に好成績を残しています。メンバーはお互いにサポートをし合い、鼓舞し合ってパフォーマンスを高めていました。それぞれの選手が自分自身の仕事を全うし、チームスコアに貢献し、素晴らしい雰囲気を作り出していましたし、女子チームと一緒に過ごして共に戦ったことが、チーム全体にエネルギーを作り出したと思います。アジア大会に出場した全員が、この思い出を一生忘れることはないと思います。

アクシデントの中、日本チームは15位タイに 金谷拓実は個人戦2位入賞



競技報告 2 世界アマチュアゴルフチーム選手権

1957年に世界35か国のゴルフ協会、連盟を加盟団体とするWAGC/現IGF(国際ゴルフ連盟)が設立され、1958年に第1回大会を開催。この男子大会は、当時の米国大統領であるD.アイゼンハワー氏から『アイゼンハワートロフィー』と名づけられました。女子は1964年に第1回大会を開催。カップを寄贈したシルビア・エスピリトサント女史にあやかり『エスピリトサントトロフィー』と呼ばれ、今日まで続けられています。

アイゼンハワートロフィー 世界アマチュアゴルフチーム選手権

開催日：2018年9月5日(水)～8日(土)
開催地：アイルランド
開催コース：Carton House, O'Meara Course and
Montgomerie Course
参加国：72ヶ国

【選手】男子：今野 大喜(日本大学4年)
金谷 拓実(東北福祉大学2年)
中島 啓太(代々木高校3年)



エスピリトサントトロフィー 世界女子アマチュアゴルフチーム選手権

開催日：2018年8月29日(水)～9月1日(土)
開催地：アイルランド
開催コース：Carton House, O'Meara Course and
Montgomerie Course
参加国：52ヶ国

【選手】女子：西村 優菜(大阪商業大学高校3年)
安田 祐香(滝川第二高校3年)
吉田 優利(麗澤高校3年)



Day1 日本は5位タイの好スタートも 中島啓太が怪我で棄権

日本チームの世界アマはMontgomerie Courseで開幕。先陣を切って11番ホールからスタートした金谷は前半、緻密なコースマネジメントで3バーディを奪うと、後半も4バーディ・1ボギーで6アンダーパーをマーク。続いてティーオフした中島は13番でティーショットが紛失球となりダブルボギーが先行。18番もボギーを叩いてスコアを落としたが、落ち着きは失わず徐々にグリーンタッチも掴み始め2オーバーパーまでスコアを戻した6番でアクシデントに見舞われる。6番のドライバーショットでダウンスウィングに入った瞬間、違和感からスウィングを止めようとしたが、動きが止まらずドライバーヘッドで地面を強く叩いてしまい、左手首を痛めてしまった。このホールをボギーとした中島は、7番のグリーンで棄権を申し出ることとなった。このアクシデントに奮起したのか、今野が3バーディ・2ボギーの1アンダーパーと粘りのプレーでチームのピンチを救った。この日の日本チームは、7アンダーパーでホールアウト。5位タイの好位置で第1ラウンドを終えた。首位は通算12アンダーパーのデンマーク、2打差の2位にホストのアイルランドがつけ、男女アベック優勝を狙う強豪アメリカは19位タイ、連覇を狙うオーストラリアは23位タイと大きく出遅れた。

Day2 金谷拓実が活躍を見せるも 日本チームは21位タイに後退

第2ラウンドはO'Meara Courseでのプレーとなった日本チーム。前日の負傷が癒えない中島が第2ラウンドのプレーを見合わせ、金谷と今野の2人のスコアがチームスコアに直結することになったこの日。小雨の中で金谷がエースの活躍を見せた。1番(パー5)でバーディスタートを決めた金谷は、4番で3パットのミスからボギーを叩いたものの、その後は3～4メートルのチャンスをことごとく決める見事なプレーで6バーディ・1ボギーの68をマーク。上位進出の期待も高まったが、今野のプレーに本来の思い切りの良さが見られない。前半は1バーディ・1ボギーのパープレーで凌いだものの、12、13番の連続ボギーに続き、15番(パー5)では3打目をグリーン手前のクリークに打ち込みダブルボギーを叩いてしまう。今野は2バーディ・3ボギー・1ダブルボギーの76とスコアを落とし、日本チームは通算2アンダーパーの21位タイに順位を落とした。上位陣はこの日チームスコアを13ストローク伸ばしたニュージーランドが通算20アンダーパーで首位。1打差の2位タイにタイ、デンマーク、アイルランドがつけたほか、4打差の中に9チームがひしめく混戦模様となった。



Day3 日本はスコアを伸ばせず
首位と16打差の19位に

Montgomerie Courseでのプレーとなった日本チーム。左手首の怪我も大事には至らず、この日から中島が戦線復帰し、士気が高まる日本チームだったが、ムービングデーに足踏みとなってしまった。その中で光を放ったのは金谷。2番から連続バーディを奪うと、5番のボギーを挟んで、8番から再びの連続バーディ。後半も2つのバーディを決めた金谷は、この日6バーディ・1ボギーの5アンダーパーをマーク。通算16アンダーパーの個人戦首位タイと日本チームのエースとしての風格漂うプレーは、圧巻の姿だった。再び戦線に戻った中島は、怪我を感じさせない安定したプレーを見せる。1番でボギーを叩いたものの、2番でバウンスバック。その後は16ホールをスコアカード通りのプレーでチームに貢献した。今野は苦戦が続く。前半2バーディ・2ボギーで迎えた9番の2打目をグリーン奥に外すミスでダブルボギー。後半も1バーディ・2ボギーとスコアをまとめきれず3オーバーパーでホールアウトとなった。結局、日本チームは通算14アンダーパー。19位に順位を上げたものの、首位のニュージーランドとは16打差をつけられてしまった。優勝争いは、ニュージーランドと3打差でタイとスペイン、優勝候補筆頭のアメリカがつけている。

Day4 金谷拓実が個人2位入賞
日本チームは15位タイに終わる

19位から一つでも順位を上げたい日本チームの最終ラウンドは、O'Meara Courseでのプレー。ここまで連日60台をマークしてきたエースの金谷は、この日も素晴らしいプレーを見せる。前半は4バーディ・2ボギーの35にスコアをまとめると、後半12番のバーディで金谷にスイッチが入った。13番でもスコアを伸ばすと、15番から怒涛の3連続バーディを奪取。最終ホールはボギーとしたが、9バーディ・3ボギーの67でホールアウト。金谷は通算22アンダーパーで個人戦2位入賞の活躍でチームメイトを鼓舞する。それに呼応したのは、左手首の怪我から昨日復帰した中島。バーディとボギーが交互に訪れる前半を1つ伸ばして迎えた後半。17番(パー5)で日本チーム唯一となるイーグルを奪い、この日1イーグル・5バーディ・3ボギーの4アンダーパーをマーク。しかし、波に乗り切れない今野がこの日も2つのダブルボギーを喫するなど5オーバーパーと苦戦。日本チームは通算24アンダーパーにスコアを伸ばして順位を4つ上げたものの、15位タイに終わった。優勝争いは、首位スタートのニュージーランドがよもやの失速。変わって4打差5位タイにつけていたデンマークがチームスコアを13打伸ばす見事なプレーで通算39アンダーパーで逆転初優勝を果たした。2位はアメリカ、3位にスペインが続いた。



1 個人2位入賞と大活躍の金谷拓実
2 初日の怪我が悔やまれる中島啓太
3 波に乗り切れず苦戦が続いた今野大喜

[男子団体]

順位	国名	1R	2R	3R	4R	TOTAL
1	デンマーク	132	139	137	133	541
2	米国	140	133	134	135	542
3	スペイン	140	133	134	137	544
4	ニュージーランド	139	131	134	141	545
15T	日本	137	144	139	136	556

[男子個人]

順位	選手名(国名)	ストローク
1	Alejandro Del Ray(スペイン)	267
2	金谷 拓実(日本)	268
3T	Perry Cohen(スイス)	273
3T	Justin Suh(米国)	273
3T	Daniel Hillier(ニュージーランド)	273
135T	今野 大喜(日本)	300
棄権	中島 啓太(日本)	棄権

**日本女子の底力を発揮し
歴代最高記録を塗り替える2位入賞を果たす**

隔年で開催される世界最大の女子アマチュアゴルフチーム選手権、「エスピリトサントトロフィー世界女子アマチュアゴルフチーム選手権」がアイルランドで初開催。日本チームは、今年の日本女子アマチュアゴルフ選手権と日本ジュニアゴルフ選手権を制した吉田優利、昨年の日本女子アマ

チャンピオンの安田祐香、アジアパシフィック女子アマチュア選手権で2位入賞の西村優菜のメンバーを選考。強豪ひしめく中、日本チーム歴代最高順位を更新する2位入賞を果たして、日本女子選手の実力を世界に知らしめた。



Day1 安田祐香がチームを牽引し
日本は単独首位発進

日本チームの第1ラウンドは、比較的スコアが出やすいMontgomerie Courseでのプレー。晴天微風の絶好のコンディションの中、日本チームが躍動した。安田が、スタートホールでティーショットをバンカーに打ち込むピンチをパーで凌ぐと、2番で4メートルを沈めてバーディを先行させ、4、6、9番でもスコアを伸ばして波に乗る。後半も12番で5メートルのパーパットを沈めるなど粘りのプレーで3つスコアを伸ばした安田は、7バーディ・ノーボギーの65をマーク。個人戦単独首位に立つ活躍で、チームを牽

引した。西村と吉田は、ともに前半でスコアメイクに苦しんだものの、後半盛り返して、1アンダーパーでホールアウト。日本チームは、8アンダーパーで2位の中国に2打差をつけて単独首位で第1ラウンドを終えた。4打差の3位タイには韓国、ドイツ、オーストリア。世界女子アマチュアゴルフランキング上位3位を擁する強豪アメリカは、日本と6打差の2アンダーパー8位タイにつけた。

Day2 日本はアメリカと韓国に続く 3位の好順位をキープ

O'meara Courseでのプレーとなった日本チーム。単独首位スタートの原動力となった安田は、この日も好調なプレーを見せる。スタートの1番(パー5)でイーグルを奪うなど1イーグル・6バーディ・2ボギーの66で通算13アンダーパーにスコアを伸ばし、韓国のAyeon Choと個人戦首位タイ。西村もバーディ発進を決めるなど前半で1つスコアを伸ばして見せたが、13番に続き14番では3パットのミスで連続ボギーを喫し、1アンダーパーの72とスコアを伸ばしきれない。吉田は、1番でグリーン近くからのアプローチが傾斜を下って自分のキャディーバッグに当たる思わぬ不運に見舞われてダブルボギーでスタートしたものの、その

後は集中力を切らさず、粘りのプレーを続ける。5バーディ・3ボギー・1ダブルボギーのパープレーでホールアウト。日本チームは、8ストロークスコアを伸ばして通算16アンダーパーとしたものの、順位は3位に後退した。変わって首位に躍り出たのは、本命のアメリカ。7月のJLPGAツアーでアマチュア優勝を果たした後、全米女子アマも制したKristen Gillman。全米大学選手権を制して世界女子アマチュアゴルフランキング1位となったJennifer Kupchoとともに8アンダーパーをマークする活躍で、通算18アンダーパー。2打差の2位には大会連覇を狙う韓国がつけた。



1 粘りのプレーを見せた吉田優利
2 安定したショットが光った西村優菜
3 チームの原動力となったエースの安田祐香
4 コーチに笑顔を見せる個人2位の安田祐香

Day3 日本は3位に踏みとどまり 最終日、逆転初優勝を狙う

第1ラウンドで日本チーム単独首位スタートの舞台となったMontgomerie Courseで迎えるムービングデー。しかし、この日は、第1ラウンドとは逆方向からの強風に翻弄され、上位陣のスコアが伸び悩む。アメリカと韓国とともに最終組でのプレーとなった日本チームも、思うようにスコアを伸ばすことができなかった。個人戦首位タイに並ぶ安田は、1、6番でボギーが先行する苦しいスタート。それでも8番からの連続バーディで前半をパープレーで凌ぐ。後半も先にボギーを叩くもバウンスバックで取り返す粘りのプレーを見せてパープレーでホールアウト。西

村も前半で1つスコアを落として迎えた11番で痛恨のダブルボギーを喫し、この日2オーバーパー。吉田は、ティーショットに手応えを感じていたというが、2番でダブルボギーを叩くなど西村とともに74。日本チームは2つスコアを落とし通算13アンダーパーとしたが、辛くも3位は守り切った。厳しいコンディションの中で1つスコアを伸ばしたアメリカが通算19アンダーパーで首位をキープ。5打差の2位に韓国。日本チームは、最終ラウンドに6打差を追って逆転初優勝を狙う。

Day4 アメリカが14度目の優勝を果たす 日本は歴代最高記録の2位入賞

首位のアメリカと6打差、2位の韓国とは1打差の3位から逆転初優勝を狙う日本チーム。O'meara Courseでの最終ラウンドは、緊張からかスコアを伸ばせないもどかしい展開を強いられた。ここまでチームを牽引してきた安田は、3番でボギーが先行。波に乗り切れない展開の中、我慢のプレーを続けて9番のバーディで前半をパープレーで終える。勝負の後半、10番をボギー、13番でバーディを奪って迎えた16番(パー3)、17番(パー5)で連続バーディを決めてこの日2アンダーパーでホールアウト。個人戦2位入賞と最後まで日本チームのエースとしての活躍を見せた。西村も前半は1オーバーパーの我慢のゴルフ。10、11番ではティーショットをバンカーに打ち込むピンチも冷静な状況判断でパーで凌いだ西村は、12番のバーディでパープレーに戻すと、15番(パー5)で2オンからのバーディで勢いに乗る。16番(パー3)はティーショットをあわやホールインワンの見事なショットで15cmにつけると、17番(パー5)も残り230ヤードの2打目を3番ウッドでグリーンにヒットさせて3連続バーディ。西村は3アンダーパーで溜飲を下げるプレーで本選手権を終えた。吉田も奮闘を見せる。バーディスタートを決めたものの、連続ボギーと波に乗り切れないプレーを8番で5メートルのバーディを決めて断ち切ると、長い距離のパットを決めて3連続バーディを奪取。11番はボギーとしたが、13番(パー4)でワンオンを決めてバーディ。続く14番もスコアを伸ばして3アンダーパーをマークした。6つスコアを伸ばした日本チームは、通算19アンダーパーでフィニッシュ。一方のアメリカは、

Kristen Gillmanが67、Jennifer Kupchoが69を叩き出す圧倒的なプレーで通算29アンダーパーで1988年以来14度目の優勝を果たした。日本チームは10打差ながら歴代最高順位を更新する2位入賞。個人戦優勝のAyeon Choを擁する韓国は日本と1打差の3位となった。

[女子団体]

順位	国名	1R	2R	3R	4R	合計
1	米国	142	130	143	136	551
2	日本	136	139	146	140	561
3	韓国	140	133	147	142	562
4	中国	140	139	152	135	576

[女子個人]

順位	選手名(国名)	ストローク
1	Ayeon Cho(韓国)	273
2T	安田 祐香(日本)	275
2T	Jennifer Kupcho(米国)	275
4	Kristen Gillman(米国)	278
5	Jaclyn Lee(カナダ)	282
12T	西村 優菜(日本)	287
30T	吉田 優利(日本)	290



メダルを授与される日本女子チーム



世界女子アマチュアゴルフチーム選手権 ガレス・ジョーンズヘッドコーチ 総評

このコースで好成績を出すためには、大きくスコアを伸ばす必要があると感じ、選手たちには、アグレッシブに攻めることを伝えました。選手は最初、その戦略に戸惑いを見せましたが、収集した情報を信じて、より攻撃的なプランで戦った結果、特に安田が突出した成績を残しました。コーチスタッフは、選手が自分で集めた情報を利用して自分の計画の中でアグレッシブにプレーすることを許しました。それで失敗

をしても、私たちは何も変わらず選手をサポートし続けるということを伝えて選手たちを送り出しました。このカルチャーがチームジャパンで作ろうとしている空気です。チームメンバーは、日本を代表するという大きなプライドを持ち続けていたし、その情熱と気持ちをコースで発揮しました。「絶対に諦めない」という姿勢が、身体的に強いアメリカチームと戦うことができた要因でした。この2年間で積み上げてきたチームの文化が、この後に続く選手に対しての活動基準になると思います。

金谷拓実が日本選手 2人目の優勝を果たす

開催日：2018年10月4日(木)～7日(日)
開催地：シンガポール
開催コース：Sentosa Golf Club, New Tanjong Course
参加国：アジアパシフィックの国と地域(120名)

【選手】男子：金谷 拓実(東北福祉大学2年)
中島 啓太(代々木高校3年)
大澤 和也(日本大学4年)
丸山 奨王(カリフォルニア大学ロサンゼルス校1年)
大西 魁斗(南カリフォルニア大学2年)
呉 司聡(イーストテネシー州立大学3年)

2018年10月4日から7日の4日間、シンガポールのセントーサゴルフクラブで開催された「第10回アジアパシフィックアマチュア選手権」で金谷拓実が2010年、2011年大会を連覇した松山英樹以来7年ぶり2人目の日本選手優勝を果たし、2019年マスターズと全英オープンの出場資格を勝ち取った。

日本選手6名が出場した「アジアパシフィックアマチュア選手権」。第1ラウンドは中島啓太が首位と3打差の3アンダーパーをマークし10位タイの好スタートを切る。金谷拓実とは5打差の19位タイと出遅れ、第2ラウンドも前半で4つスコアを伸ばしたものの後半ダブルボギーを喫するなど足踏みが続き、通算2アンダーパーで首位と6打差の15位タイグループと苦戦が続いた。ムービングデーの第3ラウンド。金谷はこれまでのうっづんを晴らすような6バーディ・ノーボギーの会心のプレーでリーダーズボードを駆け上がり、中島とともに通算8アンダーパーで首位と2打差の3位タイと優勝争いに加わった。勝負の最終ラウンド。雷雲接近のため、競技が一時中断になる悪コンディションの中、金谷と中島がゲッドヒートを繰り広げる。前半を終えて、通算11アンダーパーで首位タイに並んだ2人の勝負は後半、金谷がバーディラッシュで中島を突き放す。結局、金谷はこの日7バーディ・2ボギーの65でホールアウト。通算13アンダーパーで逆転初優勝を飾った。中島は、インドのRayhan THOMASとともに2打差の2位タイに終わった。



1 松山英樹以来の快挙を成し遂げた金谷拓実
2 優勝争いを繰り広げた金谷拓実と中島啓太

[全体成績]

順位	選手名(国名)	1R	2R	3R	4R	TOTAL
1	金谷 拓実(日本)	69	69	64	65	267
2T	中島 啓太(日本)	67	68	67	67	269
2T	Rayhan THOMAS(インド)	74	64	65	66	269
4	Lloyd Jefferson Go(フィリピン)	65	67	69	69	270
5	LIMBHASUT(タイ)	66	68	68	69	271
24T	大澤 和也(日本)	69	68	73	70	280
30T	呉 司聡(日本)	68	72	70	71	281
30T	丸山 奨王(日本)	69	69	69	74	281
予選落ち	大西 魁斗(日本)	75	72	-	-	-



選手の育成強化 日本代表支援 **寄附金募集中!!**

世界へ羽ばたけ ゴルフ日本代表



国際競技において、活躍できる選手の育成強化
並びに国際競技への日本代表選手派遣のため、
皆様のサポートをお願いいたします。

募集対象

- 1 選手強化プログラムの構築
- 2 国際競技への日本代表選手の派遣や強化合宿の実施
- 3 指導者育成強化プログラムの構築

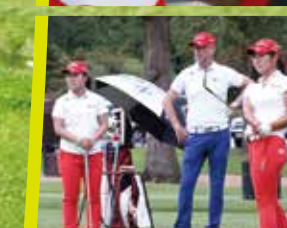
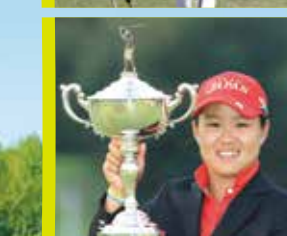
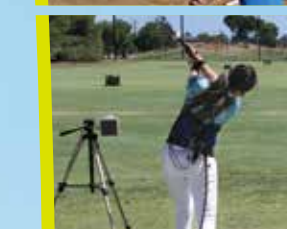
御礼について
ご寄附いただいた方へは、
金額に応じた御礼を用意させていただきます。

寄附金申込
クレジット決済と銀行振込からお選びいただけます。
www.jga.or.jp/jga/html/donation



〈本件に関するお問い合わせ先〉
公益財団法人日本ゴルフ協会 総務・管理部 Tel. 03-3566-0003

公益財団法人日本ゴルフ協会



中島啓太

金谷拓実

特別インタビュー
中島 啓太 × 金谷 拓実

ゴルフ界のこれからを担う
次世代ホープの今

GOLF
JAPAN

中島 啓太 Keita Nakajima

2000年6月24日生。7歳でゴルフを始めると中学時代には埼玉県ジュニアを3連覇するなど頭角を現す。2015年には予選会を突破して第100回日本アマ出場。中学3年生ながらマッチプレーを勝ち進み、決勝戦に進出。史上最年少優勝記録更新をかけた決勝では金谷に破れたものの、15歳とは思えないインテリジェンス溢れるプレーが光った。2017年には関東アマを制した他、世界ジュニアに優勝するなど着実に成長を続け、2018年にオーストラリアンアマで日本選手初優勝を果たす。アジア大会では個人戦金メダルを獲得し、20年ぶりの団体金メダルに貢献した。現在、代々木高校3年。



金谷 拓実 Takumi Kanaya

1998年5月23日生。5歳のときにゴルフを始め、広島国際学院高校2年の2015年には第100回日本アマチュアゴルフ選手権で中島啓太を決勝戦で下して17歳51日の史上最年少優勝記録を樹立。同年にノムラカップ日本代表に選考され26年ぶりのチーム優勝に貢献。2017年には日本オープンで池田勇太と優勝争いを演じ2位入賞を果たしている。2018年はアジア大会団体戦金メダルの他、アジアパシフィックアマで松山英樹以来2人目の日本選手優勝を飾り、2019年のマスターズと全英オープン出場を決め、国内外で注目を集めている。現在、東北福祉大学2年。



2018年アジア競技大会のゴルフ競技で、1998年以来20年ぶりに、個人・団体に金メダルを獲得した日本チームの一員として活躍した金谷拓実と中島啓太(個人金メダル)。さらに金谷は、アジアパシフィックアマチュア選手権で優勝し、2019年のマスターズ、全英オープン出場権を獲得した。ふたりは、JGAナショナルチームのメンバーとして、まさに世界と互角で戦うまでに成長した選手たち。彼らがナショナルチームのメンバーとなって大きく変容したゴルフについて、つぶさに語ってもらった。



—— ふたりにとって、2018年は、世界に飛躍した1年という感じがします。なんといっても、8月のアジア競技大会での団体・個人金メダルですね。

金谷 あのとときはチームワークがとても良かったのだと思います。結束力というか、メダルを目指してチームが丸になっていたと思います。みんなが、(過去に)金メダルを獲っていたのが5大会前で、20年ぶりに金メダルを獲りたいと言っていましたし、メンバー(今野大喜、金谷拓実、中島啓太、米澤蓮)も強かったし、モチベーションもすごく高かったです。

中島 僕は、3月に指を怪我してしまって、そこでも悔しい思いをしていましたし、2017年11月のノムラカップでも活躍できていなかったし、なんとか団体戦で貢献したいと思っていました。怪我したあとのサポートもよくしてくれていましたから、ともかくチームに貢献したいという気持ちでいっぱいでした。

金谷 僕は、チームの中で戦う姿勢はしっかりと見せたいなと思っていました。

第2ラウンドを終えて、2位とは6打差で首位を走り、第3ラウンドでも2位の韓国に5打差で最終ラウンド。結局、団体戦は通算28アンダーパー。2位の中国に7打差つけての金メダル。個人でも、中島啓太が、通算11アンダーパーで金メダルを獲得した。

中島 そうですね。僕は金谷さんに引っ張っていったのが(個人金メダル)結果につながったのだと思っています。

—— 指の怪我が回復して復帰するまで、少し時間がかかったのですか？

中島 3月に怪我して、最初はランニングもダメで、4月中旬ぐらいからダッシュなどを始め、それから素振りとかですね。

—— オーストラリアンアマチュア選手権で中島選手が、見事に優勝しましたね？

中島 はい。とても嬉しかったです。僕は、高校2年で、4月から3年になるので、進路(大学進学かプロ転向か)も考えなくてはいけなかった時期でもあったんです。でも、あの優勝で、大学へ進学しようと決めました。

—— プロ転向を選ぶのではなく？

中島 アマチュア選手として世界アマチュアランキングを上げて、もっと世界で戦えるチャンスを増やしたいと思いました。大学4年間で、その経験を活かして、その後プロ転向して世界へ行きたいんです。

—— そうなんですか。アジア競技大会の直後に、今度は、アジアパシフィックアマチュア選手権でした。そこで、金谷選手が優勝。中島選手が2位タイ。





金谷 うーん。実は、やりにくかったですね。なんか、嫌だったですね。それまでチーム一丸で戦ってきたわけですから、気持ち的に嫌だなあって(笑)。途中、リーダーボードを見ると日の丸が、上に2人あって、これが日本での戦いならば、そうは思わないで戦えていたと思うんですけど、海外で、遠征でもずっと同じ部屋ですし、ほんとと昨日までチームでしたからね。もちろん、勝ちたいという気持ちが強かったけれど、嫌な感じでした。どっちかが悔しい思いをしなければいけないわけですからね。チームなら、一緒に喜んだり悔しがったりできますけどね。どちらかが傷つくわけですから、複雑でした。

中島 たぶん(最終ラウンドの)14番ホールぐらいまでは、リーダーボードでは金谷さんより上にいたと思うんですけど、(プレーしていて金谷さんのグループで)凄い拍手が聞こえるし、ガッツポーズしているな(笑)って思っていて、だからきっと(迫って逆転して)来てるなと思っていました。内容をみれば僕が10番でバーディを獲って、その後、ノーバーディでしたし、金谷さんは、逆に14、15、16番とバーディを獲っています。(優勝した金谷との)2打差は、内容的には、10打差ぐらいの感じでしたので、ちゃんと(敗退は)素直に受け止められました。ですから、ほんとと素直な気持ちで祝福できました。

—— **金谷選手は、2019年マスターズ、全英オープンの切符を手に入りましたけど?**

金谷 信じられないです。いまでも。両方ともテレビでしか観たことないですから(笑)。

—— **ところで、ガレス・ジョーンズ・ヘッドコーチの指導は、ふたりの中でかなり影響していますか?戸惑いとかありませんでしたか?**

金谷 影響していると思います。最初の戸惑いは、ショートゲームに費やす練習量の多さと、ショートゲームに時間が割かれるためにロングゲームの練習量が、いままで自分がやっていた時間から大幅に少なくなることでした。あるいは、練習ラウンドで、まったくボールを打たずにコースのチェックやグリーン面を傾斜器で測ったりとか大変な作業ですからボールを打つ暇がなかったですし、いままでは全然やってこないことでしたから、すごく戸惑いました。

中島 僕は、コーチと言えば、スウィングを見てもらうためにコーチのところに行くことぐらいしか経験がありませんでした。そういうものだと思っていたのに、コーチがコースに来て、練習ラウンドについて回って、アドバイスを受けるとは考えていませんでした。

金谷 僕は、最初はその戸惑いが強くて、なかなか受け入れられませんでした。でも、僕は、高校卒業して一度ツアーテスト(QT)を受けてうまくいかずに、何か(自分のゴルフを)変えたいなと思っていた時期でした。そんなときに、同期の畑岡奈紗選手が、ナショナルチームにいて、ジョーンズさんのアドバイスを、ほんとと100パーセント忠実に守って、真面目になんでもやっていて、1年で日本女子オープンに優勝(2016年)したり活躍していたんです。じゃあ、僕も、全部やってみようと思いました。それで、合わなかったら戻せばいいと。でも、いまはすごく前に進んでいるな、と実感しています。もし、ジョーンズさんと出会えないで、こういう経験しないで、プロ転向していたらと考えると…いまは恐ろしいことだったと思います。

中島 僕は、まだまだですけど、格段に自分のゴルフが変わってきていると思います。もともとパーオンすることが多かったのですが、あまりショートゲームの練習とかしていなくて、結果的に、それがボギーになってしまうケースもありました。でも、ショートゲームのドリルなど練習する量が増えたことで、改善されてきています。

—— **いままでやったことのない練習法とは?**

金谷 たとえば、プレッシャーをかけた中での練習ですね。同じシチュエーションから10発打って、それが何発うまく寄ったか。そこで、7だとすれば、次は8にとか、感性だけでなく数値で表して評価すると、プレッシャーの中での成功確率がわかるし、アップもできます。ですからプレッシャーがかかる場面でも、いままでよりもうまくいくようになったと思います。ジョーンズさんは、いろいろな提案を出してくれるんですけど、無理やり強制はしない人ですね。

—— **ゲームマネージメントもアドバイスしてくれますか?**

中島 はい。すごくわかりやすいですし、理論的です。でも、納得がいかなければ、そこでしっかりと話し合っています。

金谷 一度、どうしても納得がいけないことがあって、かなりやりあったこともあります(笑)。でも、たとえば2オン可能なパー5で、僕はグイグイと狙っていくタイプなんですけど、そのときのリスクを考えて、3打目で勝負する考え方なども教わりました。

中島 4ラウンドのゲームプランも、予め練習ラウンドで、どういう攻め方をするか、それを他人のスコアに関係なく自分のゴルフとしてやり通すことも大切だと教わりました。

—— **そういう丁寧な関係性がいいですね。ふたりは、海外の試合とか合宿とかは、同部屋ですか?**

中島 はい。僕は、金谷さんに強い刺激を受けています。教わるのがたくさんありますし。

金谷 いや、僕も啓太くんと一緒にいることで、いい刺激になっていますよ(笑)。

—— **同部屋だと、もめごともあるんじゃない?寝相が悪いとか(笑)**

中島 (笑)いや、いつだったか、ベッドが2つひっついていて、金谷さんが僕のほうに占領してきたんですよ(笑)。それで、ベッドとベッドの間に、予備の枕を挟んで立てかけて……。

金谷 そこまで言っちゃう(笑)。啓太くんは、後輩なんですけど、かなりしっかりとしていて、コーチから教わった栄養管理なんかも、僕が気にせずに食べようとすると「あ、それは、ダメですよ」って注意してくれるんですよ(笑)。

特別インタビュー
中島 啓太 × 金谷 拓実

ゴルフ界のこれからを担う
次世代ホープの今



—— **楽しそう(笑)。ところで、ふたりともプレー中にあまり喜怒哀楽を出さないようにだけど?**

金谷 啓太くんは、冷静沈着。ほんとに表情を変えないよね。

中島 金谷さんは、結構、海外では感情を表に出しますね(笑)。

金谷 うーん。僕は、出すほうかなあ。でも海外だけですよ。日本だと叱られそうなので(笑)。

中島 僕は、自分はまだまだだと思っているので、ボギーを叩いても、あ、さっきのホールでナイスパーだったから、これで帳消しだとか思って耐えています(笑)。

—— **これからの更なる成長が楽しみですね。**

中島 大学の4年の間に、アジアパシフィックアマに勝って、マスターズ、全英オープンに行きたいですね。

金谷 驚きしかないマスターズ、全英オープンでプレーすることから、また何かを発見したいですし、できれば卒業して、もしプロ転向したら、最初から海外に出たいですね。



巻頭特集

JGA ナショナルチームレポート 特別インタビュー

男子ナショナルチーム



金谷 拓実 カナヤ タクミ
Takumi Kanaya

出身地 広島県
学 校 東北福祉大学 2年
年 齢 20歳
ランキング 1位

2018年主な戦歴

アジアパシフィックアマチュア選手権 優勝
日本オープンゴルフ選手権 24位タイ(ローアマチュア)



中島 啓太 ナカジマ ケイタ
Keita Nakajima

出身地 埼玉県
学 校 代々木高校 3年
年 齢 17歳
ランキング 2位

2018年主な戦歴

アジア競技大会 個人・団体金メダル
オーストラリアアマチュアオープン 優勝



米澤 蓮 ヨネザワ レン
Ren Yonezawa

出身地 岩手県
学 校 東北福祉大学 1年
年 齢 19歳
ランキング 4位

2018年主な戦歴

日本オープンゴルフ選手権 33位タイ
アジア競技大会 団体優勝



桂川 有人 カツラガワ ユウト
Yuto Katsuragawa

出身地 愛知県
学 校 日本大学 2年
年 齢 20歳
ランキング 5位

2018年主な戦歴

日本学生ゴルフ選手権 優勝
日本オープンゴルフ選手権 33位タイ



久常 涼 ヒサツネ リョウ
Ryo Hisatsune

出身地 岡山県
学 校 作陽高校 1年
年 齢 16歳
ランキング 6位

2018年主な戦歴

日本ジュニアゴルフ選手権 2位
ユースオリンピック 個人5位タイ、団体9位タイ



杉浦 悠太 スギウラ ユウタ
Yuta Sugiura

出身地 愛知県
学 校 福井工大附属福井高校 2年
年 齢 17歳
ランキング 8位

2018年主な戦歴

日本ジュニアゴルフ選手権 優勝
APGCジュニア選手権 個人14位タイ・団体7位



杉原 大河 スギハラ タイガ
Taiga Sugihara

出身地 徳島県
学 校 東北福祉大学 1年
年 齢 19歳
ランキング 7位

2018年主な戦歴

日本学生ゴルフ選手権 37位タイ
東北アマチュアゴルフ選手権 優勝

年齢・所属は2018年12月現在
ランキングは2018年11月12日時点

女子ナショナルチーム



安田 祐香 ヤスダ ユウカ
Yuka Yasuda

出身地 兵庫県
学 校 滝川第二高校 3年
年 齢 17歳
ランキング 1位

2018年主な戦歴

世界女子アマチュアゴルフチーム選手権 個人・団体2位
日本女子アマチュアゴルフ選手権 4位タイ



吉田 優利 ヨシダ ユウリ
Yuri Yoshida

出身地 千葉県
学 校 麗澤高校 3年
年 齢 18歳
ランキング 3位

2018年主な戦歴

日本女子アマチュアゴルフ選手権 優勝
日本ジュニアゴルフ選手権 優勝



小倉 彩愛 オグラ サエ
Sae Ogura

出身地 岡山県
学 校 岡山操山高校 3年
年 齢 18歳
ランキング 10位

2018年主な戦歴

日本女子アマチュアゴルフ選手権 9位タイ
アジア競技大会 個人20位・団体5位



後藤 未有 ゴトウ ミユウ
Miyu Goto

出身地 福岡県
学 校 冲学園高校 3年
年 齢 18歳
ランキング 5位

2018年主な戦歴

日本女子オープンゴルフ選手権 8位タイ(ローアマチュア)
日本女子アマチュアゴルフ選手権 7位



梶谷 翼 カジタニ ツバサ
Tsubasa Kajitani

出身地 岡山県
学 校 山陽女子中学 3年
年 齢 15歳
ランキング 6位

2018年主な戦歴

ジュニアオープンゴルフ選手権 2位
日本ジュニアゴルフ選手権 3位タイ



神谷 そら カミヤ ソラ
Sora Kamiya

出身地 岐阜県
学 校 土岐津中学 3年
年 齢 15歳
ランキング 9位

2018年主な戦歴

APGCジュニア選手権 個人6位タイ・団体7位
日本女子アマチュアゴルフ選手権 17位

年齢・所属は2018年12月現在
ランキングは2018年11月12日時点

2019年 国際競技日程

開催日	競技名	開催コース(国)	派遣選手人数
3/6~8	クィーンシリキットカップアジア太平洋女子招待ゴルフチーム選手権	Glenelg GC(オーストラリア)	女子3名
3/12~15	第1回オーストラリア合宿	Glenelg GC(オーストラリア)	男女全員
4/17~19	ネイバーズトロフィーチーム選手権	トム・ワトソンGC(宮崎県)	男女各4名
4/25~28	Women's Amateur Asia Pacific	ザ・ロイヤルGC(茨城県)	女子6名以上
6/18~20	トヨタジュニアゴルフワールドカップ	中京GC(愛知県)	男子4名・女子3名
7/1~6	ナショナル強化合宿	フェニックスシーガイア・リゾート(宮崎県)	男女全員
8/28~31	APGC Junior 三菱コーポレーションカップ	箱根CC(神奈川県)	男女各3名
9/9~12	デューク・オブ・ヨークヤングチャンピオンズトロフィー	Royal Portrush(英国)	男女各1名
9月	ノムラカップ アジア太平洋アマチュアゴルフチーム選手権	Clearwater Bay Golf&CC(香港)	男子4名
10/26~29	Asia Pacific Amateur Championship	Sheshan GC(中国)	WAGR上位6名
11/7~9	The Spirit International Amateur Golf Championship	Whispering Pines GC(アメリカ)	男女各1名